

受講番号 19018 学校名 高知追手前高等学校 氏名 武内 克行

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年1H 生徒数 39 名
科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 PROMINENCEⅠ(東京書籍)・システム英単語

クラスの様子・特徴

生徒たちは英語という教科に対しては、かなりの高いモチベーションを持っていると思われる。ただし、中学時代との授業との違いに戸惑いながら、必死に高校の授業についてきているのが現状である。

問題の確定

英語を音読するのは好きであるが、自分の思っていることを相手に対して自分の言葉で表現できるかが問題である。

予備調査

A 授業の観察

4月当初より英語学習(毎時間の単語テスト、予習・復習、週末課題等)に真面目かつ積極的に取り組んでいる。特に、英語を音読することが好きである。

B 生徒による授業評価

6月実施アンケートでは約90%の生徒は授業に満足していた。英語の授業で力をつけたい技能は高い順から、話す力(31%)→書く力(24%)→読む力・聞く力(19%)であった。

C 学力データ

7月模試での1-1Hの英語の偏差値は50.7であった。学年の平均偏差値が50.2なので、ほぼ同じ出発となった。ただし、同時期における昨年の1学年の平均偏差値は53.0であったので、かなり低めの出発でもあった。

リサーチ・クエスチョン

教科書を音読することで、英語のリズムを体得し、英文を理解すれば自分の思っていることを相手に対して伝えることができるのではないだろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 毎時間の小テスト(vocabulary)を確実に理解することで英語を身近に感じるのではないだろうか。

実践1

⇒ 英単語のボキャブラリーを増やすために、毎時間授業前に英単語の小テストを行う。実施方法は英単語を教員が1度だけ読み、生徒がその単語の意味を書く。また、ボキャブラリーが増えることで、テキスト等の英文に対する理解を深めさせる。

検証1

⇒ 毎回10問の小テストが良い意味で習慣化し、授業前にはクラスのほとんど全員がその日の範囲を確認していた。4月～11月末までに68回の小テストを行った。その平均は10点満点中9.3とかなり高いものであった。しかし数字が表しているほどに、テキスト等の英文を理解できているかどうかという不安が残る。

仮説2

⇒ ペアチェックを行うことで、テストというよりもお互いの理解度チェックに役に立ち、今後の学習に活かすことができるであろう。

実践2

⇒ 小テストをペアでチェックすることでセルフチェックするよりも緊張感があり、意識の向上にもつながる。また、10問中8問正解を合格とすることで、モチベーションを持続させる。

検証2

⇒ 個人よりもペアワーク等がクラスにより学習の雰囲気を作らせた。様々な音読活動が積極的に行われた。7月の模試のクラス偏差値は50.7であったが、11月の模試では52.8に上がっていた。これは英語学習だけに言えることではないが、学習環境においてクラスの雰囲気が効果的に働き、学習する上での大切な要素になったと思う。

仮説3

⇒ 日々の音読活動を通して基本的文型の定着及び英文構造の理解に発展し、より積極的に英語を話すことになるだろう。

実践3

⇒ その時間に学習した授業内容をワークシートを使って、ペアワーク、シャドーイング、要約(日本語→英語)等の様々な音読活動を通じて、生徒自身の言葉で応答できるようにさせる。

検証3

⇒ 11月に行った自己評価アンケートでは約70%の生徒が英語Ⅰの学習に対して肯定的であった。特に、【表現】の項目では「英語ディベート等を行う際、英語Ⅰで習った表現を積極的に使った」は70%であった。生徒は既習の文法事項・構文を使い、英語のディベートに取り組んだのが伺えた。

研究の成果

4月当初の3日間をかけてのオリエンテーションが高校での英語学習への第一歩であった。その内容は年間シラバス、授業方針、家庭学習の仕方、「システム英単語」年間計画表配布(発音・小テスト体験等)と多岐にわたり、生徒たちはいささか戸惑っていたようである。しかし、時間が経つにつれ、授業における小テストの「システム英単語」、そして「シス単」が生徒たちに浸透して、よい意味で授業にリズムとクラスの雰囲気づくりの要素の一因になっており、生徒たちの英語に対する態度は、積極的であった。

今後の授業改善の課題

7月の模試(50.7)より11月の模試の偏差値(52.8)が上がっていたのは生徒たちの努力の賜であろう。しかしながら、例年に比べると、楽観視できないのが現状である。いや、むしろ危機感さえ覚える。なかでも、「表現力」の項目が一番得点率が低い。今後の課題としては文法・語法に関して、既習事項の定着を図るとともに、2年生でのライティング指導にうまくつながるような和文英訳等の訓練が必要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

873-6141

電子メール